

経営比較分析表（令和6年度決算）

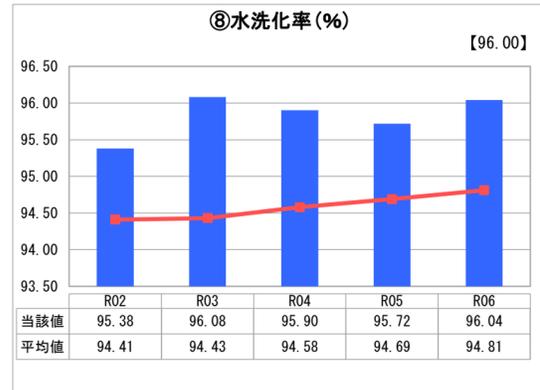
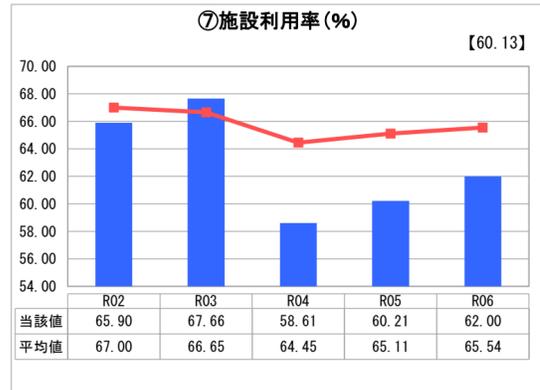
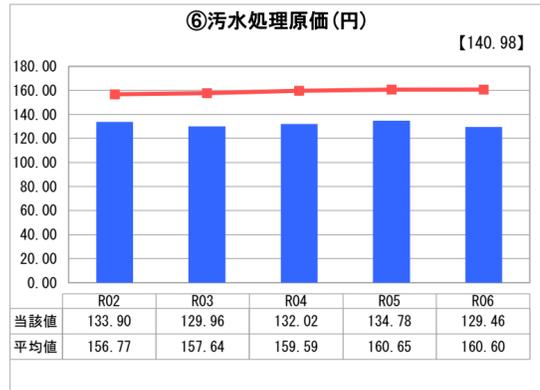
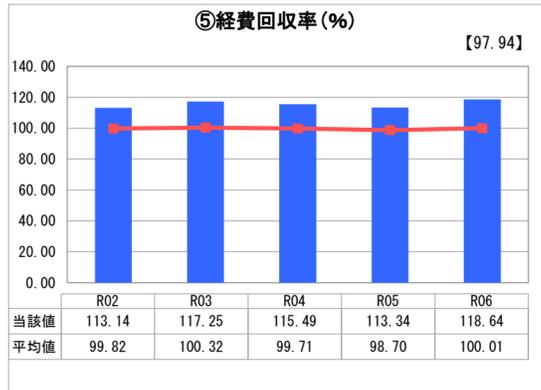
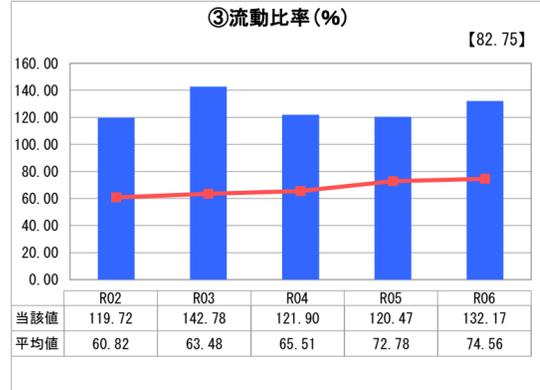
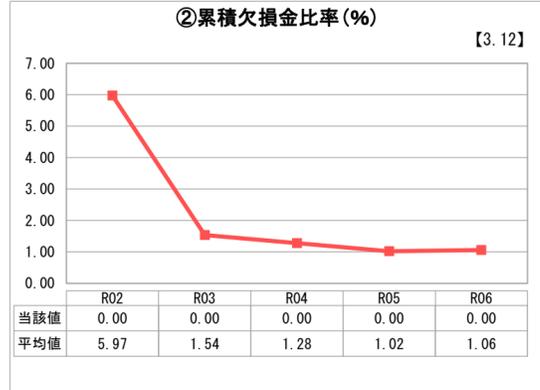
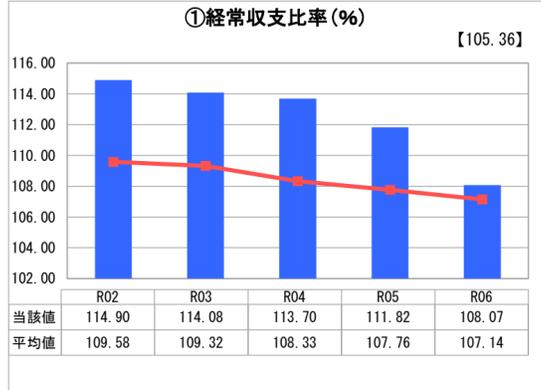
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	51.48	88.66	70.16	2,618

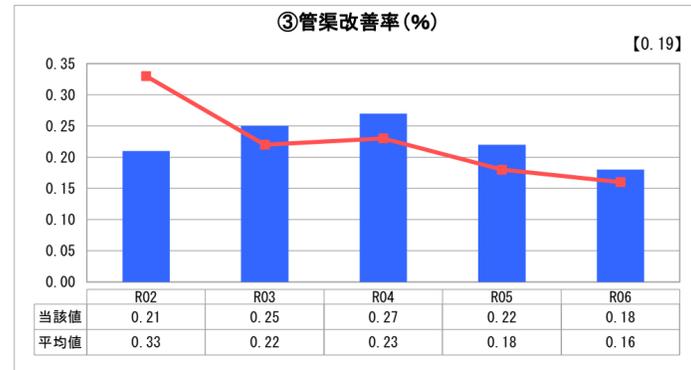
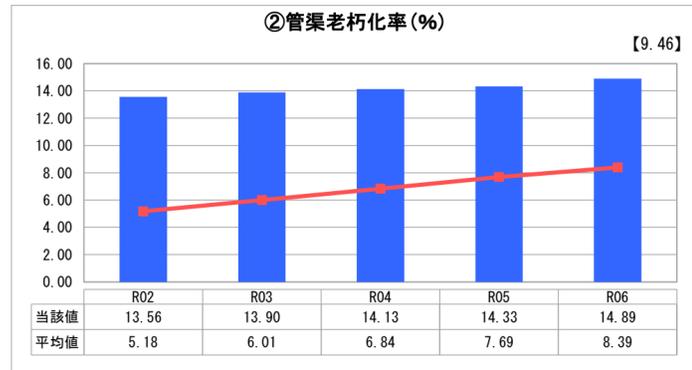
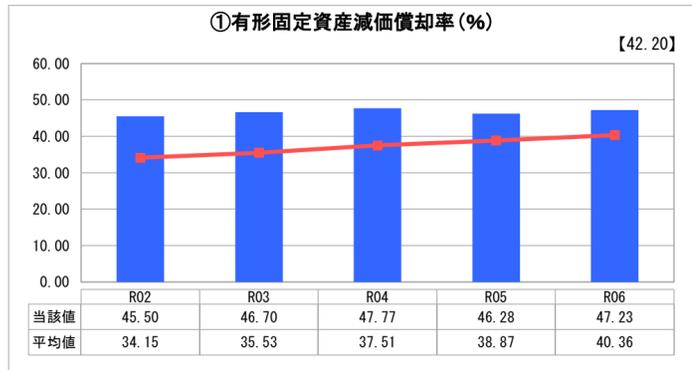
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
254,029	536.37	473.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
224,004	52.34	4,279.79

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上を維持しているが、物価高騰に伴う維持管理費の増加等により、比率は悪化していることから、収支改善を図る必要がある。

「②累積欠損金」は、発生していない。

「③流動比率」は、100%以上を維持しており、適正な支払能力は確保している。

「④企業債残高対事業規模比率」は、おおむね類似団体と同水準であり、今後も使用料収入に対する適正な企業債残高を維持していく必要がある。

「⑤経費回収率」は、100%以上を維持しており、汚水処理費に要した費用を使用料収入で賄えている。

「⑥汚水処理原価」は、類似団体と比較して低く推移しており、効率的な汚水処理が行えている。

「⑦施設利用率」は、類似団体と比較して低く、人口減少等を踏まえ、施設規模の適正化を図っていく必要がある。

「⑧水洗化率」は、類似団体と比較して高く推移しており、引き続き未接続者への接続を促進していく。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」及び「②管渠老朽化率」は、類似団体と比較して高く、老朽化が進んでいる。「③管渠改善率」は、類似団体と同水準となっている。

法定耐用年数を超えた施設が多く、今後さらに増加する見込みであるため、老朽化対策を進めていく必要がある。

全体総括

本市は類似都市よりも早期に下水道事業に着手しており、施設の老朽化が進んでいるため、老朽化対策や災害対策をさらに進めていく必要がある。

今後も、物価高騰に伴う維持管理費や施設の改築費等の増加、また、人口減少に伴う使用料収入の減少が見込まれる。

そのため、福井市下水道事業経営戦略に基づき、計画的に老朽化対策等を進めるとともに、事業の効率化など、収支改善に向けて取り組んでいく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。